

甲状腺外科草子 106

独断のお気に入り映画 2

杉野 圭三

昔から西部劇が好きで、特にジョン・フォード監督の映画がお気に入りである。数多い作品中、この一本を先ず挙げよう。

荒野の決闘 (1946, J・Ford 監督)

OK 牧場の決闘として、数多くのリメイク作品がある。悪役クラントン一家と正義の味方アープ兄弟、助太刀のドク・ホリディ、清楚な美女クレメンタインの絵にかいたような取り合わせの配役と筋立てである。



アープ兄弟

ドク・ホリディ

ワイアット・アープ役のヘンリー・フォンダの朴訥な(大根?)演技と正統的二枚目ヴィクター・マチュアの取り合わせも絶妙。抒情に溢れる静けさと随所にみられるユーモアのバランスが良い。



有名な椅子とダンスの場面

キャシー・ダウングス (1924-1976) はこの作品で有名となるも、若くして癌のため死去。しかし、今もこの映画の中で輝いている。



ラストシーン

最後の有名なワイアット・アープのセリフが「君の名前が好きだ、クレメンタイン」。今時の中学生でも、もっと気の利いたセリフを言うぜ〜、もっと早よ一言わんかい！

ユー・ガット・メール (1998, N・Ephron 監督)

この映画は「街角 桃色の店」(エルンスト・ルビッチ監督、1940)のリメイク作品で

ある。ジェームズ・ステュアート主演による文通による交際を描いたコメディだが、物語の展開がいかにも時代がかった作品である。



街角桃色の店 (ジェームズ・ステュアート主演)

ユー・ガット・メールの脚本はエフロン監督姉妹が担当しているが、随所にジェーン・オースティンの名作「自負と偏見」が引用されている。



この映画を見た後に、「自負と偏見」を見直せば、監督たちの意図が読めてくる。現代版の「自負と偏見」の映画化を考えていたのに相違ない。



トム・ハンクスとメグ・ライアン

「自負と偏見」に出てくるエリザベスとダーシーの対立は、将にこの映画のキャスリーンとジョーの関係として描かれている。

犬猿の仲の二人の関係はユーモアあふれる展開の中で、徐々に変化する。



劇中の映画音楽もルイ・アームストロング、スティービー・ワンダーなどの大物をはじめ、多くの名曲による洒落た構成がなされ、映画における音楽の力がいかに大きいかと感ぜられる作品である。

(一甲状腺外科医の徒然なる随想)

2024年7月2日